

公立学校施設における木材利用の推進について

令和7年12月

大臣官房 文教施設企画・防災部 施設企画課

学校施設における木材利用の意義と効果

教育的効果の向上

㊦ 木材による快適な学習環境や木材を通じた学習機会の形成

- ・ 柔らかで温かみのある感触や優れた調湿効果により、豊かで快適な学習環境を形成
- ・ 森林の保全、地域の産業や地球環境問題などについて学習する教材としての活用

地球環境への配慮

㊦ 材料製造時の炭素放出量が少ない省エネ材料のため温暖化抑制に寄与

- ・ 鉄やアルミニウム等に比べて、材料製造時の炭素放出量が少ない省エネ材料であり、炭素を貯蔵するため温暖化抑制に寄与

地域の風土、文化への調和

㊦ 地域材や地場職人の活用による地域経済や地場産業の振興

- ・ 学校づくりを通じた、地域とのコミュニティ形成や木の文化の継承の機会を提供
- ・ 地域材や地場の職人の技術の活用により、地域経済の活性化や地場産業の振興に



伐採した町有林での見学状況



地元大工による丸太材の加工

文部科学省における木材利用推進の施策

1. 公立学校施設整備の補助制度

令和8年度概算要求額 2,066億円＋事項要求の内数
(令和7年度予算額 691億円の内数)

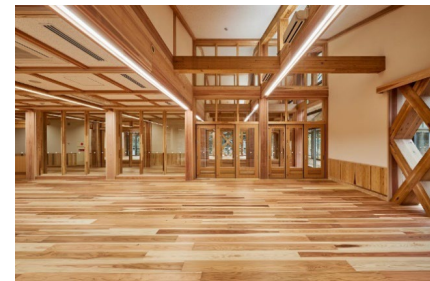
幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、特別支援学校

新増築……………1／2（原則）

改築、大規模改造等…1／3（原則）

地域材を活用して

木造施設を整備する場合、補助単価を **5.0%加算**。



奈良県川上村かわかみ源流学園

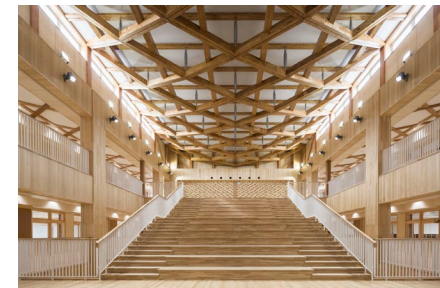
2. 木材活用の講習会の実施

学校設置者、設計技術者等を対象とした講習会を開催 (令和7年度：山梨県身延町、青森県六戸町)

- ・木材を活用した学校施設について、有識者、設計者、設置者からの講演、優良事例の現地見学を実施



視察校(身延町立身延中学校)



視察校(六戸町立義務教育学校六戸学園)

3. 事例集・手引きの作成

木造3階建て校舎の手引

- ・木造3階建て校舎について、イラストや写真等を用いて建築計画の留意事項等を整理した手引。
- ・木造校舎を造ることによる効果や、実大
火災実験による安全性の検証について
の解説等を掲載。



4. 無料相談窓口の設置

- ・令和4年度から、CO-SHAプラットフォーム内に、無料相談窓口を設置

5. 木造校舎の構造設計標準 (JIS A 3301)

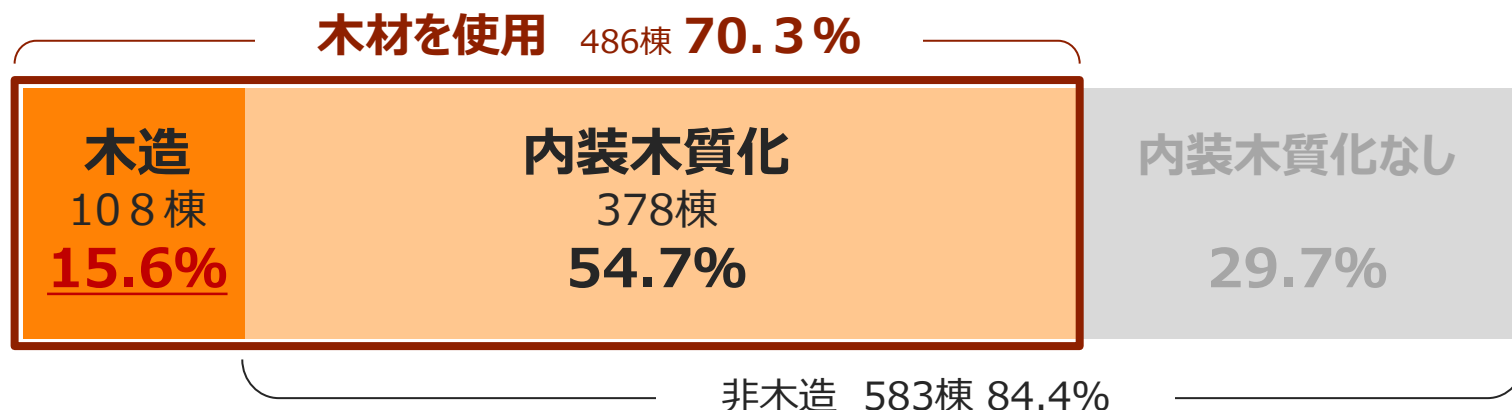
- ・一般流通材を利用した在来軸組工法の魅力ある校舎の計画が可能
- ・木造の設計経験の少ない設計者においても、容易に設計が可能

公立学校施設の木材利用の状況について

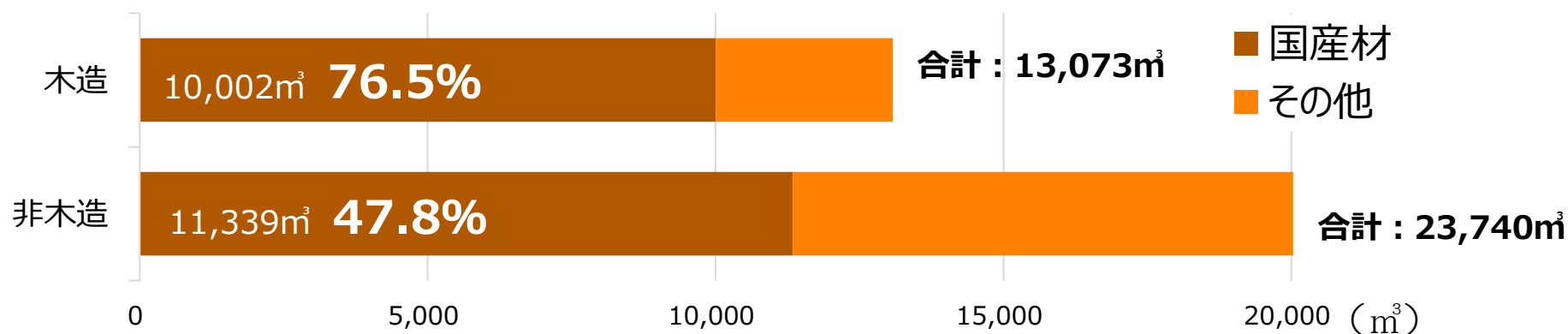
「公立学校施設における木材利用状況
に関する調査結果(概要)(令和5年度)」より



- 令和5年度に新しく建築された全ての学校施設691棟のうち、486棟（**70.3%**）が木材を使用



- 令和5年度に新しく建築された学校施設及び改修を行った学校施設における**国産材**の使用率は、木造施設では**76.5%**、非木造施設の内装木質化等では**47.8%**だった

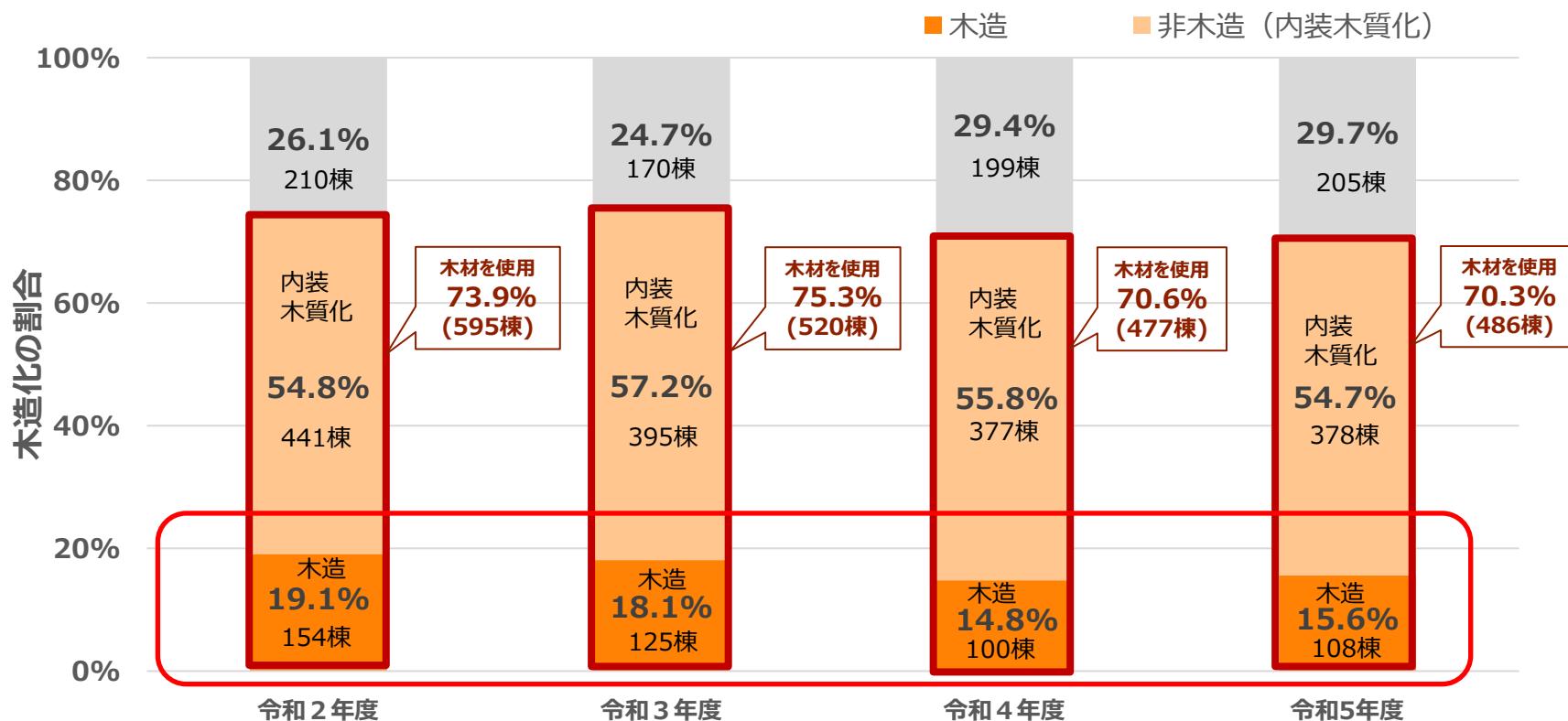


※調査対象：公立の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校
※四捨五入のため合計が一致しない場合がある

公立学校施設の木材利用の状況について（木造化の割合等）

- 令和5年度に新しく建築された公立学校施設**691棟**のうち、**486棟（約70%）が木材（木造＋内装木質化）を使用**
- 令和5年度に新しく建築された公立学校施設**691棟**のうち、**108棟（約16%）が木造校舎**

新しく建築された公立学校施設の木造化の割合

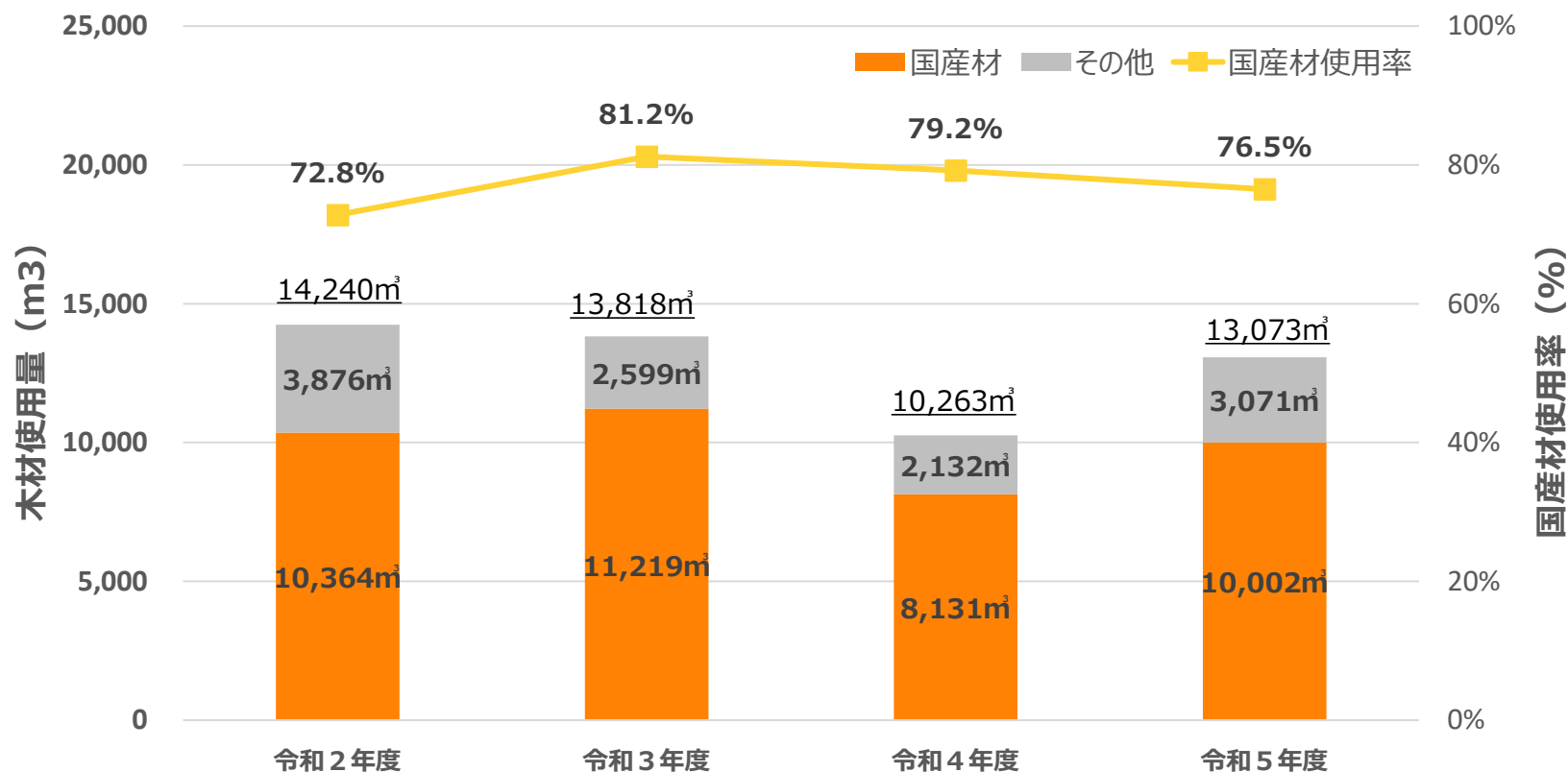


※調査対象：公立の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校
※四捨五入のため合計が一致しない場合がある

公立学校施設の木材利用の状況について（木造施設の国産材使用率等）

- 令和5年度に新しく建築・改修を行った木造学校施設における国産材使用量は約10,002m³、国産材使用率は約80%となっている。

木造施設の国産材使用量及び国産材使用率の推移



※調査対象：公立の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校

※四捨五入のため合計が一致しない場合がある

出典：文部科学省「公立学校施設における木材利用状況 に関する調査結果（概要）」

(参考) 木造と他の構造との建設コスト比較について

建設コストは、階数、規模、用途、敷地条件及び地盤の固さなどの整備内容に大きく影響されるため、構造種別ごとに単純比較することは困難であるが、下記1～2のようなデータがある。

< 1. 令和7年度木材を活用した学校施設づくり講習会 林野庁 講演資料より抜粋 >

- 木造建築物は躯体が軽量になることから基礎工事のコスト面で優位性を発揮。

■ 2階建て小学校

- 木造の方が鉄筋コンクリート造より**9%低コスト**

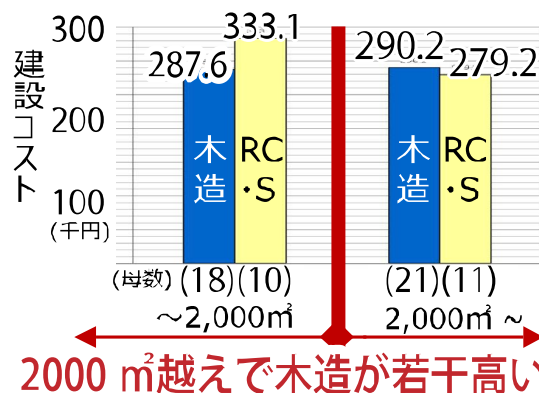
| | 木造 | RC造 | 木／RC |
|-----------------|-------------------------|-------------------------|-------------|
| 計 | 119,195円/m ² | 131,391円/m ² | 0.91 |
| 躯体・その他工事 | 106,271円/m ² | 100,390円/m ² | 1.06 |
| 杭・地盤改良等(仮設・土工込) | 12,924円/m ² | 31,001円/m ² | 0.42 |

木造公共建築物誘導経費支援事業報告書（H30 木を活かす建築推進協議会）の「木造勾配天井」の場合

※実在する鉄筋コンクリート造（RC造）の2階建て小学校について、木造に置き換えた場合の構造設計・積算を行い、m²単価のコストを比較

< 2. 横浜市建築局によるコスト分析 >

- 横浜市建築局によるコスト分析の結果としては、2,000m²を超える規模では、木造のコストがRC造やS造よりも若干高くなる傾向



木造・RC造のコスト比較
による特徴

出典：横浜市建築局

<課題 1. 技術者不足の問題>

発注者や設計事務所において、木造施設の設計を経験した人が少なく、RC造等を選択している。

→解決策：①木造校舎の構造設計標準（JIS A 3301）の活用促進

②講習会や事例集等の作成により、発注者や設計者を支援

<課題 2. 木材調達の問題>

学校は開校時期を厳守する必要があり、木材調達スケジュールに懸念があるため、RC造等を選択している。

→解決策：①講習会や事例集等において、材料の先行発注、林政部局との連携等の好事例等を周知

②木造校舎の構造設計標準（JIS A 3301）の活用により、企画段階で概算数量の把握が可能

<課題 3. 法規制の問題>

都市部の学校において、敷地が狭い場合 3 階建て以上の校舎となり、耐火上の要件が厳しいため、RC造等を選択。

→解決策：①講習会において、木造 3 階建て校舎等を現地視察するとともに、「木造 3 階建て校舎の手引」の内容や好事例を説明（木 3 学視察校：R 6 年度松田町立松田小学校、R 7 年度六戸町立六戸学園）

<課題 4. 維持管理コストの問題>

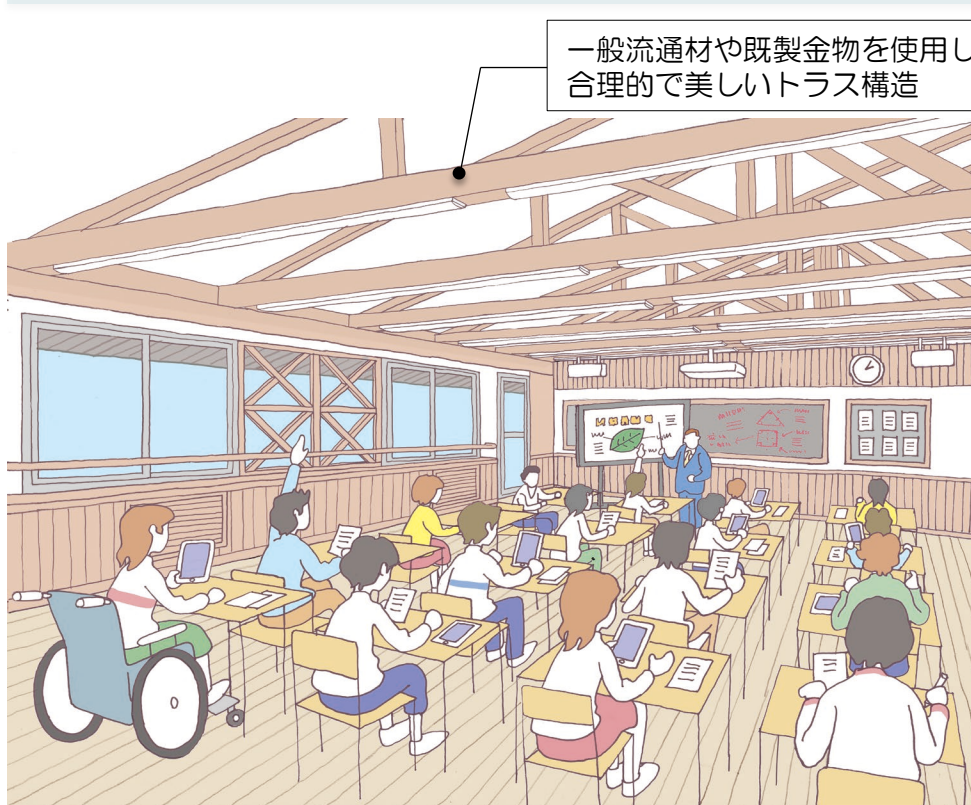
木造は、他の構造と比較して維持管理コストがかかるというイメージがあり、RC造等を選択している。

→解決策：①講習会や事例集等において、外壁等の雨掛かり部分に耐久性の高い素材を使用している好事例等を周知

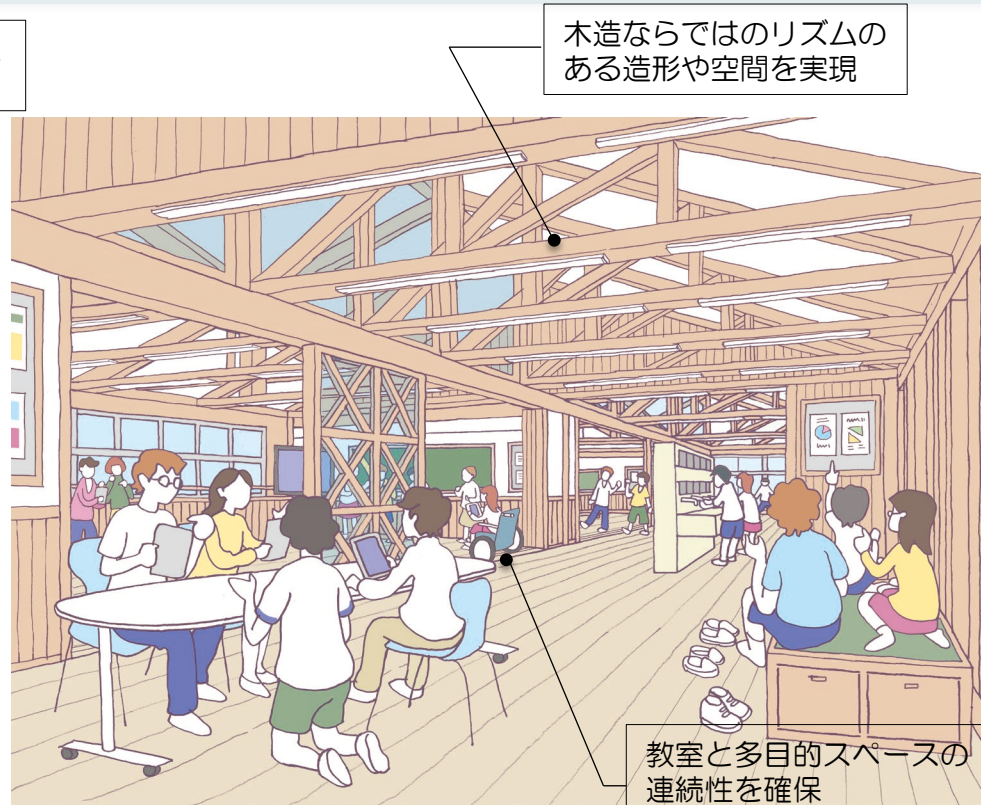
②木造校舎の構造設計標準（JIS A 3301）を活用した設計例を作成し周知

木造校舎の構造設計標準（JIS A 3301）の改正について

- 新しい時代の学校施設の在り方や建築基準関係法令の改正等に対応するため、令和6年8月に「木造校舎の構造設計標準の在り方に関する検討会」（座長：長澤悟 東洋大学名誉教授）を立ち上げ、「木造校舎の構造設計標準（JIS A 3301）」の全面的な改正に向けた検討を実施中。（令和9年12月 改正予定）
- 遮音・防音対策、維持管理に配慮した設計、ZEB対応、CLT高性能耐力壁の導入を検討中

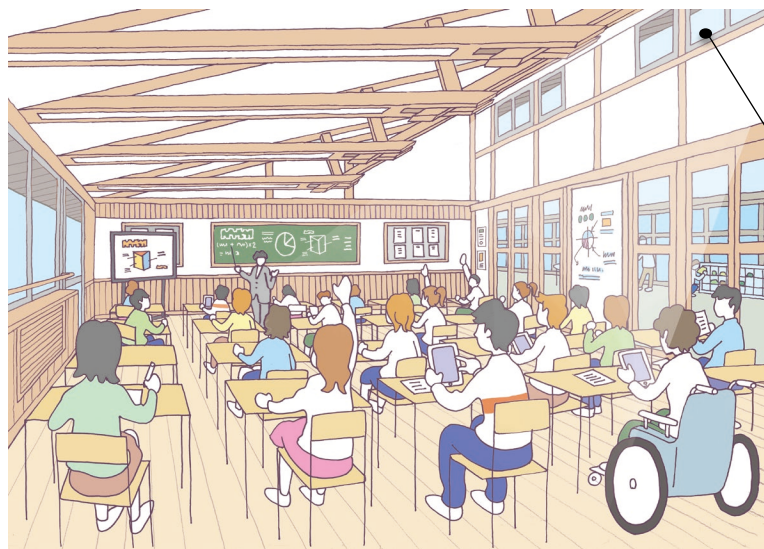


① 普通教室（2階）における授業の様子（JISトラス）



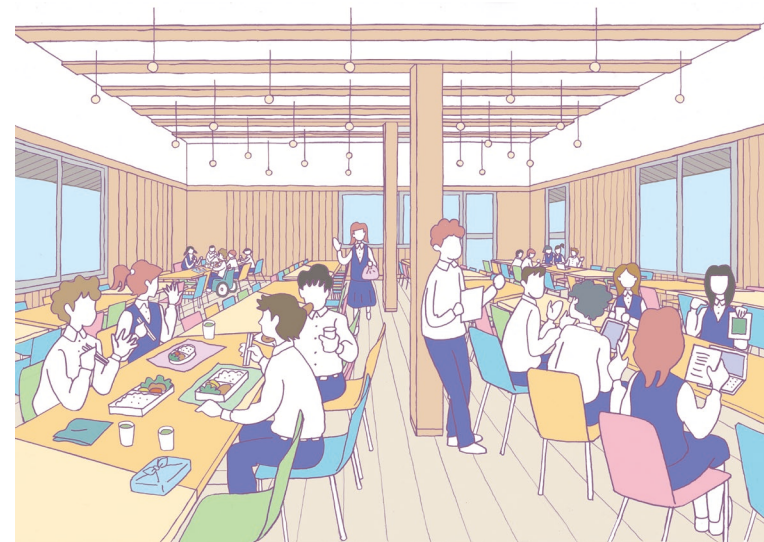
② オープンスペース（2階）におけるグループワークの様子

木造校舎の構造設計標準（JIS A 3301）の改正について

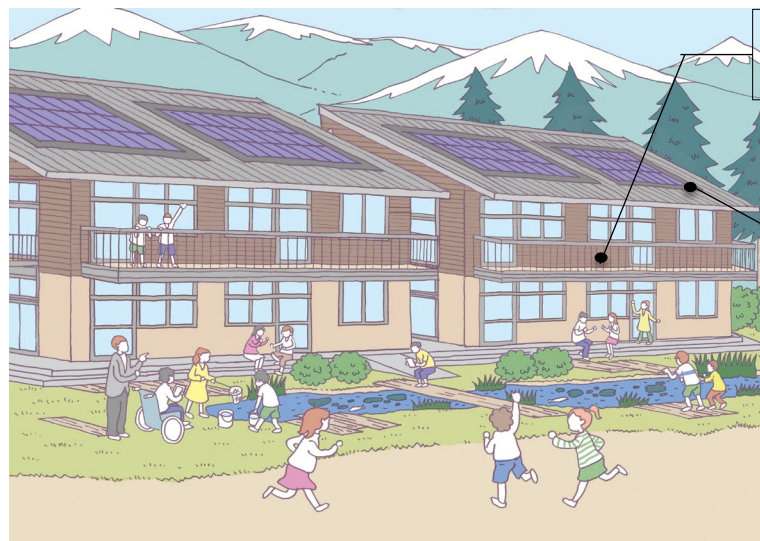


ハイサイドライト
による自然採光

③ 普通教室（2階）における授業の様子（張弦トラス）



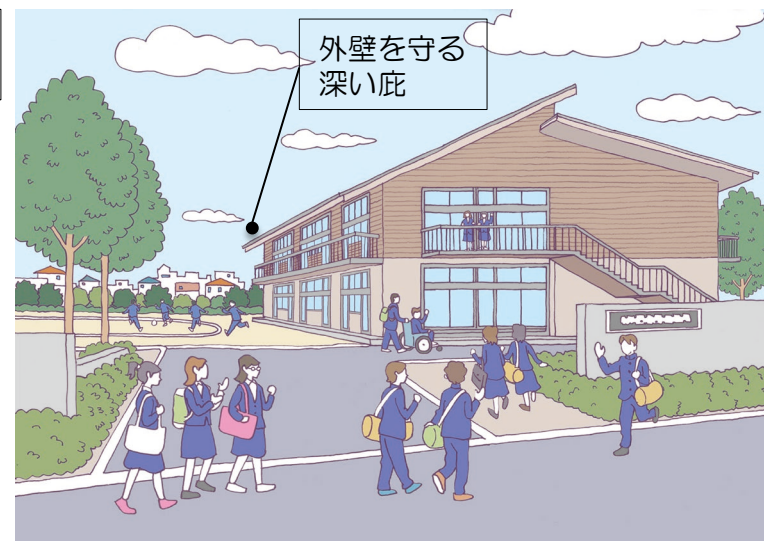
④ 多目的室（大部屋型）での活動の様子



バルコニー設置により
維持管理がしやすい

太陽光発電設備による創エネ

⑤ 小学校外観イメージ



外壁を守る
深い庇

⑥ 中学校外観イメージ

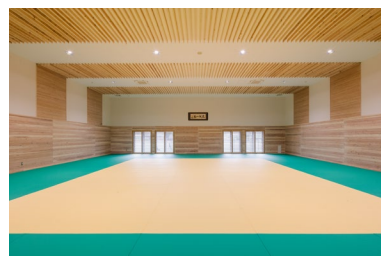
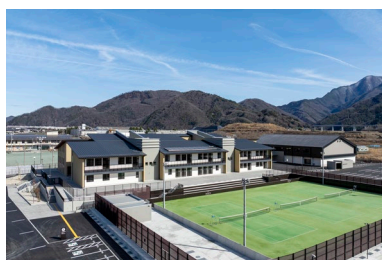
木材を活用した学校施設づくり講習会

令和7年度 木材を活用した学校施設づくり講習会

◆ 山梨会場

開催日時： 令和7年10月9・10日
開催場所： やまなし地域づくり交流センター（甲府市）
視察学校： 身延町立身延中学校

住 所 山梨県南巨摩郡身延町下山9667番地
構 造 木造一部RC造 2階建
延床面積 5,942㎡
竣工年月 令和6年3月
設計者 (株)馬場設計



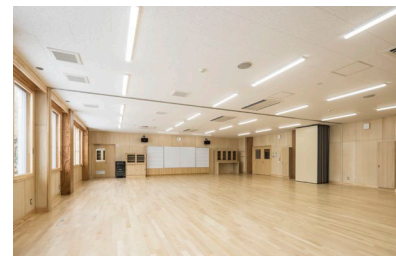
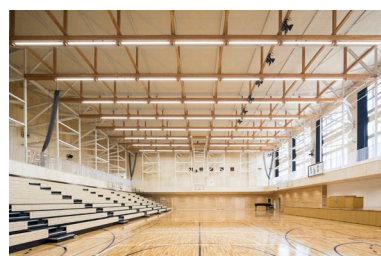
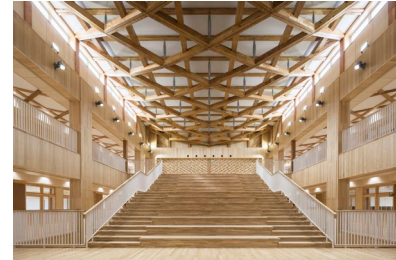
【特徴】

- ・地域から寄付された大径材の杉丸太をホール等に使用。
- ・図書館等は、燃えしろ設計として木材を「現し」で使用。
- ・身延町教育委員会、山梨県木材協会等の4者で「木材利用促進協定」を締結。
- ・令和6年度木材利用推進コンクール「木材利用推進中央協議会会長賞」。
- ・RC造の「壁等」で区画することにより木造での1時間準耐火建築物を実現。
- ・柔道場の壁材の一部に東京オリンピック・パラリンピックのレガシー材を使用。

◆ 青森会場

開催日時： 令和7年10月30・31日
開催場所： ユートリー（八戸市）
視察学校： 六戸町立義務教育学校 六戸学園

住 所 青森県六戸町
構 造 木造（一部S造）3階建
延床面積 11,934.02㎡（校舎棟）
竣工年月 令和7年3月
設計者 (株)八洲建築設計事務所



【特徴】

- ・敷地内に町立図書館を併設し、図書の有効活用と学習時間の確保に対応。
- ・各教室に大型電子黒板を設置し、ICTを有効活用した授業が可能。
- ・全体学習及び集会等に使用可能な大階段。
- ・各教室前廊下は、多目的スペースとして活用できるよう十分な広さを確保。
- ・アリーナで全校集会等を円滑に行うことができる収納ステージ及び移動観覧席の設置。
- ・未来の学びに対応できるICTメディアルームの設置。

CO-SHA Platform

～学校施設整備・活用のための共創プラットフォーム～



CO-SHA
Platform
ウェブサイト



新たな学校づくりのアイデア集（木材利用の学校施設）



小田原市 学校木の空間づくり事業

地域と共に育つ新しい学びの樹

地域材をふんだんに使用した 木に子どもたちが寄り添う学び舎

耐震改修に合わせた総合的な 性能向上と内外装の木質化



東富水小学校、酒匂小学校、
豊川小学校、新玉小学校、
大窪小学校、前羽小学校



松田町立松田小学校

校舎：木造、一部RC造 3階建



中津川市立福岡小学校

校舎：木造、S造 2階建



香美町立村岡小学校

RC造 3階建（内装木質化）

小田原市における、**森林環境譲与税**等を活用した小学校の**内装木質化事業**。地域産木材の利用拡大を図るため、小田原市内の小学校を対象に「学校木の空間づくり事業」として、**年間1校程度**を対象に**内装木質化事業**を実施。

準耐火構造による**木造3階建て**の公立学校として計画された校舎。木造校舎そのものを“木育”の教材として活用するため、昇降口のデザインウォールの作成、梁への寄せ書きや全校児童が参加する現場見学会等を開催。

小学校4校の統合に伴い新しく整備された小学校の木造校舎。**地域材によって構成される2,730mmモジュールの空間**や、工事期間中から実施された木育等、木に子どもたちが寄り添う工夫が様々な観点で施されている。

兵庫県但馬地域の内陸豪雪地における**小学校の長寿命化改修**。地域の木材と技術を用い、世代を超えてふるさとの魅力を伝える教材としての「木の学校」を目指した。

木の学校づくり その構想からメンテナンスまで（改訂版）

木の学校づくり その構想からメンテナンスまで（改訂版）（平成31年3月）

- **木材を活用した学校施設を計画するに当たり必要となる知識及び技術に関する総合的な解説書。**
- 木の学校づくりにおける、構想、計画、設計、木材調達、施工、メンテナンス、関連法規、補助制度について分かりやすく整理するとともに、現地調査事例やコラムを掲載。
- 資料の構成



[URL] https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/mokuzou/1414326.htm

第1章 序章

・木の学校づくりの意義と効果や、学校施設における木材活用の変遷（木造学校建築の衰退～今後の期待と課題）を解説

第2章 構想、3章 計画、第4章 設計、第5章 木材調達、第6章 施工、第7章 メンテナンス

- ・木の学校づくりを進める上で、計画・設計・施工等の各段階に応じて必要となる知識や技術等を解説
- ・竣工後のメンテナンスについても木造施設に特有な留意点等を掲載

第8章 今後の課題・提案

第9章 関連法規等の解説

第10章 補助制度等の解説

第11章 現地調査事例

第12章 参考資料



東松島市立宮森小学校小学校（宮城県）

- ・東日本で被災した東松島市の野蒜小学校と、児童数が減少していた宮戸小学校を統合。
- ・木材については全体の9割を東北から調達。

7.2
m
×
9
m
ス
パ
ン



木の学校づくり – 学校施設等のCLT活用事例 –

木の学校づくり – 学校施設等のCLT活用事例 – （令和2年3月）

- 構造部材としても利用可能なCLT（Cross Laminated Timber）を活用した学校施設等の事例を紹介。
- 比較的新しい技術であるCLTについては、政府全体としてもその利用促進を図っており、CLTを活用した建築物に対する補助制度も掲載。



【URL】 https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/mokuzou/mext_00525.html

○ 資料の構成

I CLTの概要

- ・ CLTの定義、CLTの特徴、CLTの多様な使い方を解説

II 事例一覧

- ・ 27事例を、CLTの使い方の別で3分類した上で、写真、CLT利用量や利用部分等のデータで紹介

III 個別事例

- ・ 特徴のある4事例を抽出し、事業背景、CLTの具体的な使い方や工夫点等を紹介

IV 支援制度・関係法令等

- ・ CLT活用に係る補助制度、CLTに係る関係法令等、CLT活用推進のための政府一元窓口、文部科学省における木材活用に関する主な手引き等を掲載

参考資料（CLTの概要 詳細版）

- ・ 実務者に向けて、「CLTの概要」に記載の内容を詳述

CLTの多様な使い方



木の学校づくり – 木造 3 階建て校舎の手引 –

木の学校づくり – 木造 3 階建て校舎の手引 – (平成28年 3 月) ※ 令和 2 年10月一部変更

- 平成27年 6 月の改正建築基準法の施行に伴い、**木造 3 階建て校舎が建てやすくなった**ことから、木材利用が一層促進されるよう、**試設計を実施し、その建築計画の留意事項等を整理**した手引を作成。
- 建築関係の技術者や専門家のみならず、学校施設の整備に携わる事務職員にも理解できるよう、イラストや写真等を用いて以下の4つの項目について整理。



- 資料の構成 [URL] https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/mokuzou/1369464.htm

● 木の学校をつくる

- ・ 木造校舎をつくることによる効果等を解説

● 実大火災実験による安全性の検証

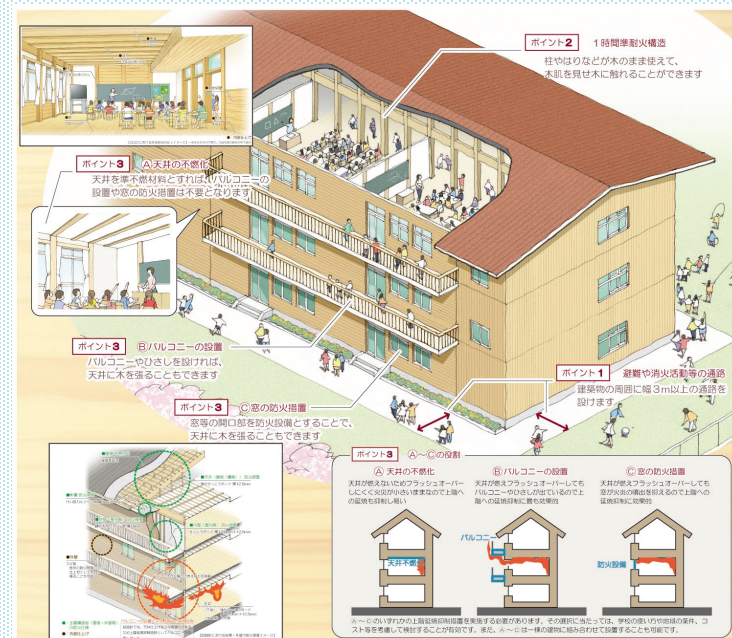
- ・ 木造 3 階建て校舎の仕様等を検討するために国交省が実施した実験を解説

● 建築基準法改正の主なポイント

- ・ 木造 3 階建て校舎を計画する上での法令上のポイントを解説

● 木造 3 階建て校舎の試設計を通じた計画上の留意事項

1. 木造 3 階建て校舎を建てられる地域
2. 木造 3 階建て校舎の敷地
3. 木造 3 階建て校舎の屋根・外壁
4. 木造 3 階建て校舎の構造部材・内部仕上げ等
5. 木造校舎が 3,000㎡を超える場合の区画方法
6. 木材の調達と工期設定について



建築基準法改正の主なポイントをイラストで紹介